

対象	中学校以上
教科	国語科
該当 单元	中学3年 「奥の細道」
教科書	光村図書・東京書籍等
掲載日	2019.10.3. 朝刊伊賀版 10版

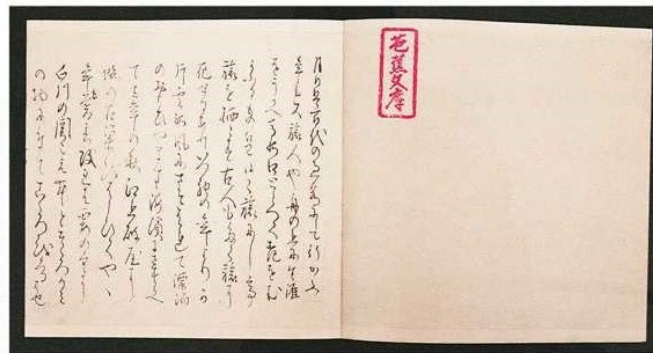
目玉は奥の細道自筆本

芭蕉翁記念館で特別展



伊賀市上野丸之内の芭蕉翁記念館で、普段見ることのできない貴重な資料を公開する特別展「奥の細道」が開かれている。十二日の芭蕉祭を前に、松尾芭蕉が残した同名の紀行文に関する書籍を中心に三十点を集めた。目玉は自筆本とされる奥の細道で、推敲の過程などを知ることができる。（日暮大輔）

①資料を見る来館者＝伊賀市上野丸之内で
②芭蕉自筆の奥の細道（複製）



奥の細道の旅では一六八九年三月二十七日～八月二十一日に、江戸から東北、北陸を経由して大垣に至った。紀行文としては芭蕉最後の作品で、今年は出発から三百三十年に当たる。自筆本は県外の個人所蔵

品を借り受けた。一九七七年に初公開された。貼り紙や墨を使った修正箇所が多くあるのが特徴。冒頭部分の「**芭蕉文集**」という書き出しも貼り紙があり、その下には「月日は百代の過客として立席」と記されている。書家に作品を書き写してもらった清書本や挿絵、注釈を付けて出版されたものなどがあり、江戸時代のベストセラーとして人気を博したことがうかがえる。同書の注釈本の作成に伊賀の俳人が関わったことも紹介した。

貼り紙や墨で修正 推敲の過程分かる

学芸員の橋本宏成さんは「芭蕉が緻密に文章を練り上げたことが伝わってくる」と話す。午前八時半～午後五時。十二月二十七日まで。自筆本は十月十四日まで観覧でき、それ以降は複製を展示する。期間中休館なし。一般三百円、高校生以下百円。芭蕉翁記念館 0595(2)2219

問1：伊賀市は松尾芭蕉の生誕地です。何県にあるでしょう。（ ）県

問2：推敲とはどんな意味でしょう。（ ）

発 展： に入る言葉を書きましょう。歴史的仮名遣い、現代仮名遣い、どちらも構いません。（ ）

【活用にあたって】

中日新聞名古屋本社の道路をはさんだ西に愛知県図書館があります。その入口で「横井也有出生地」という案内板を見つけました。横井也有は江戸時代の俳人です。名前だけは知っていたのですが、ここで生まれたのかということで、なぜか身近に感じられました。

今回の記事は「奥の細道」に関するものです。江戸時代に書かれた作品ですが、芭蕉の出生地が三重県伊賀市、奥の細道むすびの地が岐阜県大垣市ということで、東海北陸に関わる人は親近感を覚えるのではないのでしょうか。

新聞記事は、教室で学ぶ古典との距離感を縮めてくれます。古典は手の届かない、はるか遠くにはありません。私たちのすぐ近くにあり、いつも人に読まれることを待っています。その橋渡しをしてくれるのが新聞です。ちょっとした小さな記事が、広く深い古典の世界に手招きしています。

解答例

問 1 : 三重

問 2 : 文章の字句を何度も練り直すこと。

発展 : 月日は百代の過客にして行かふ (う)